

入選

小さな親切から優しい世界へ

千葉県 習志野台第一小学校 四年

高田 愛美

私はよく、家族でスーパーに行って買い物をします。そのときに、一つだけ心がけていることがあります。それは、「カゴを取るときは、高く積まれているところから取って、低く積まれているところにもどす。カートは長い列のところから取って、短い列のところにもどす。」ということです。

そうするようになったきっかけは、ようち園のころ、お母さんから、

「小さなことかもしれないけれど、カートやカゴの取り方に気をつけるだけで、スーパーで働く人のお手伝いになるんだよ。」

と言われたからです。

私は、その話を聞いたころはまだおさなかつたので、お母さんの言っている意味がわかりませんでした。自分を取りたいところから取って、もどしたいところにもどせばいいんじゃないか、とそのときは思いました。

でも、いろいろなことを知っているお母さんの言うことだから、やってみようと思った私は、買い物にいくたびに、カートやカゴを取るとき、もどすときに意識するようになりました。

よく見てみると、カートやカゴは場所によって、積んである高さや、ならんでいる長さが大きくちがうことに気がつきました。

実際にお母さんの言うようにやってみたけれど、最初は何がお手伝いになるのかがわかりませんでした。けれどあるとき、いつものように短い列にカートをもどしていると、お店で働いている人に、

「助かったよ、わざわざありがとう。」

と言われたのです。

私は、何でお礼を言われたのかわからなかったもので、少しびっくりしました。でも、私がカートをもどした後に、その人は長い列から短い列にカートは何台も移動させていました。そのときの長い列は、そこを通る人がじゃまになるくらい長かったので、スーパーの人が並び替えないといけなかったんだ、と思いました。

私は、一人ひとりが意識して取ったりもどしたりすれば、スーパーの人のやることが少しはへって助かるんじゃないかと思い、ようやくお母さんが言っていた、「お手伝いになる」という意味がわかりました。

私は、何だかうれしい気持ちになりました。お母さんに、スーパーの人からお礼を言われたことを伝えると、

「良かったね、お手伝いできたね。」と笑顔で言ってくれました。

私はお母さんの笑顔を見て、さらにうれしい気持ちになりました。自分のことだけを考えるのではなく、相手の立場に立って考えることの大切さを教えてくれたお母さんに、かんしゃしています。

今度はお母さんに教えてもらうのではなく、私自身が誰かにとっての小さな親切になることを見つけたいと思います。